

令和元年 11 月 1 日

## 「地域資源を活用した商品開発研究」実施要項

農林科

### 1 目的

農業科・科目「グリーンライフ」では、新カリキュラムにおける後継科目「地域資源活用」への移行を見据え、生徒の主体的・対話的で深い学びの充実のために、プロジェクト学習の手法を用い、専門事業者との連携のもと、地域資源を活用した商品開発研究を実施する。

### 2 内容

今年度は、生徒の発案を元に遠忠食品(株)との商品開発研究として、島トウガラシ入り海苔の佃煮を生産する。本校で栽培した伊豆大島の地域資源の島トウガラシ（青トウ）を出荷し、完成した商品を学校祭などにおいて販売する。なお、本研究は笹川平和財団 2019 海洋教育パイオニアスクール単元開発部門の助成により取り組むものである。

### 3 生産品の取り扱いについて

使用する本校の生産品は、連携事業者の商品化を業務委託する。※委託内容の詳細は別紙参照

今年度は収穫した青トウガラシ 2 キロを冷凍、着払いで遠忠食品(株)に送付する。これを原料とし、東京都の地域特産品認証食品（E マーク認証）「江戸前でい！」シリーズの佃煮をベースとした、東京湾の生海苔を使用した食品添加物、化学調味料不使用の商品を製造し、元払いで本校に送ってもらう。令和元年 9 月の台風 15 号被災地の食材を用いることで災害復興の意味もある。

### 4 商品開発の教育的な効果について

栽培を通じて地域資源の価値を認識させ、生産者としての責任感を身に付けさせる。生産した地域資源をどのように加工・流通させるか考える生きた学びにする。

本年 3 月の大地の力コンペで御縁のあった同社との連携であり、発表など学習活動を通じた外への波及効果は、生徒の生産技術習得意欲と学習意欲の向上につながっている。

### 5 島内への波及効果について

現在農業の六次産業化が注目されており、各地で地域の特色を活かした取り組みがなされている。本校の商品開発研究はモデルケースになると思われ、伊豆大島の農業や観光業の活性化につながる可能性がある。